# アリマテアのヨセフ(1)

## ——解説と訳——

安田　　淳

# *Joseph of Arimathea* (1)

## —— An Introduction and a Japanese Translation ——

Jun YASUDA

Abstract

In Middle English literature *Joseph of Arimathea,* drawn from early part of the French *Graal,* is the earliest alliterative poem unlike other poems of the alliterative revival in style, metre and vocabulary. This poem, on the other hand, shows greatest artistry of author, no less than that of the poems of the revival, in his quite free rendering of a long battle sequence in his source. Here I provide a Japanese translation of the poem (from the beginning to 1.554) under my interpretation with a brief introduction. The rest part will appear in the forthcoming volume.

*Joseph of Arimathea* はヴァーノン写本にあるものが，今日現存する唯一のものである。この写本は，大きさが15.5インチ×22.5インチあり，重さが48.75ポンドある。この写本の多くのページには彩色を施した模様—大抵は様式化した花の模様—が入っており，個々の項目を描いた細密画もいくつか見られる。本来，この写本は414のフォリオからできていたようだが，不幸にもそのうちの73のフォリオが失われてしまっている。この写本はこれまで1370-80年の製作とされていたが，写本の最後の部分の叙情詩が1381年の農民の反乱と1382年の地震のことに言及していること，及びテクスト批評の見地から，1400年に近い年代と見るほうが有力である。

*Joseph of Arimathea* の現存するテクストは不完全なものである。というのは，フォリオ402の一葉が欠けているためである。これには，*Piers Plowman* の最後の部分と *Joseph* の初めの部分が含まれていたと考えられている。W. W. Skeat の計算によると，*Joseph* の最初の約100行程度が欠けているということである。ただしこれには，D.A. Lawton のように失われた部分の長さを見積もる正確な手段はないとする見方もある。

*Joseph* は現存する最も初期の頭韻詩であるが，その正確な年代推定はできていない。一般には14世紀中葉の作と考えられている。この作品は，*The Estoire Del Saint Graal* と *Queste Del Saint Graal* の二つの原典を基にして書き改められたものである。ここでは原典の利用法について立ち入る余裕はないが，D.A. Lawton によると，詩人は *Estoire* を作品の骨組みの構成に用いているようである。しかし，*Joseph* そのものが単なる原典の翻訳以上の出来栄えであることは，多くの人の認めるところであり，そのことは戦闘場面の描写（489～614行）において特にそうである。物語は，ヨゼフがサラスの王エヴァラックを改宗させるという話であり，基本的にはロマンスというよりは，ある種のロ

昭和63年10月31日受理
* 一般教育部講師